



2016-17年度
国際ロータリー会長
ジョン F. ジャーム

Weekly Report Niigata



2016-17 年度
国際ロータリーのテーマ



2016~17 年度
新潟ロータリークラブ会長
宇尾野 隆

新潟 RC8 月第 3 例会 (2016.8.23) No.3147

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 宇尾野 隆会長挨拶

会員増強と拡大について

2 週間ぶりの例会で、久しぶりに皆さんにお会いする感じが、お盆休み、夏休みのあった方はいかがでしたでしょうか？ きっとリフレッシュされてお仕事についてられることと思います。さて、今月は、会員増強・拡大月間です。考えてみますと、ロータリーの歴史は、会員増強と拡大の歴史でもあります。

1905 年にポール・ハリスとその仲間、4 人で始まったロータリークラブも、今では 201 カ国と地域に 34558 クラブ、会員総数 1,220,115 人の組織になっています。ロータリーは、創設より 111 年になりますが、拡大に次ぐ拡大を続けてきたわけであり、とはいえ、ロータリークラブは最初から拡大志向では、なかったようであり、シカゴクラブ設立当初は、会員相互の親睦と相互扶助が目的でありました。親睦とは、会員同志が兄弟、親類のようなつきあいをすることであり、相互扶助は会員同志が商売を助け合うことでありました。

シカゴクラブには、スタティスティシャン (statistician) という係があって、会員同志の取引の記録をとるほど、会員間の取引は厳しく義務づけられていました。つまり、会員が増加すれば会員相互のお得意様が増え会員同志の商売が繁盛する仕組みになっていたのです。

創立 2 年目、1906 年の 4 月にドナルド・カーター事件という事件が起きました。フレデリック・トゥイードという会員が、特許弁理士ドナルド・カーターに、親睦と相互扶助の特典を説明し、シカゴクラブへの入会を薦めたとき、彼は「職業をもって社会で生活している以上、職業を通じて社会に貢献することが自分が存在する証になるのであって、自分達だけの利益にこだわって、社会的に何もしない団体に将来性も魅力もない」と述べ、入会を断ったのであります。その当時、ロータリークラブは簡単に入会できないことが大きな魅力であり、入会を薦めれば誰しもが 2 つ返事で受諾することが当然だと思われていましたから、この入会拒否事件はシカゴクラブに少なからぬショックを与えました。そして、これまでの親睦と相互扶助のみに終始するクラブ運営に限界を感じていたポール・ハリスは、この事件を絶好のチャンスと捉え、直ちにロータリーの在り方を転換することを決断し、定款を改正することを条件にドナルド・カーター

に再考を促し、入会を了承してもらいました。

そして、ポール・ハリスが 1907 年に会長に就任して定款を改正し、3 番目の目的に「シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める」と追加し、奉仕の概念が導入されました。

しかし、当時のシカゴクラブの会員数は 150 名前後で、新しい会員の大部分は、親睦と相互扶助を目的に入会したものであり、そこに始めて奉仕という概念が導入されたものですから、クラブ運営は大揺れに揺れました。

ポール・ハリスの方針に積極的に賛同したのは、ごく少数でありました。クラブ内で圧倒的多数を占めていた「親睦・相互扶助の互恵派」は会員の拡大にも消極的であり、ポール・ハリスはじめ少数の「奉仕派」は拡大にも積極的であり、両派の論争は、想像を絶するものであったようでありました。

そして、遂にシカゴクラブを拠点にしたロータリー活動を断念したポール・ハリスは、健康が思わしくないことを表向きの理由として、二期目の任期途中で会長を辞任します。

その後、ポール・ハリスは、他都市へのロータリークラブの拡大に取り組み、1908 年 11 月にサンフランシスコに、1909 年にはオークランド、シアトル、ロスアンゼルスに新クラブを設立しました。その後、ニューヨーク、ボストン、ポートランド、ミネアポリス、セントポールに新クラブが誕生し、ロータリーの拡大は順調に進んでいきました。そして、1910 年に当時 16 クラブまで拡大されていたロータリークラブの連合体である全米ロータリークラブ連合会が結成されシカゴのコンGRESS・ホテルで第一回年次大会が開催されました。これを境として、ポール・ハリスはじめ奉仕・拡大派の活動の場は、シカゴクラブを離れ全米ロータリークラブ連合会に移ってまいりました。やはり、ロータリークラブの拡大は、ポール・ハリスの働きが大きかったようです。本年度、RI のジョン F. ジャーム会長は、会長増強と維持として地区に対し会員数を 3% 増やすことを目標として、クラブに対しては、大クラブは (51 名以上) 少なくとも 2 名の純増、会員維持率を前年と比べ少なくとも 1% 上げることまたは、100% を維持すること、そして 40 歳未満の新会員の入会を、51 名以上のクラブでは少なくとも 4 名入会させることを目標として下さいと言っています。

RI を中心として、国際ロータリーは、世界的なボランティア団体を目指しているようであり、そして、会員や寄付を増やすために今回の規定審議会の改正にあるように、入会金を廃

止し、職業の条件を緩和し、例会の回数にも柔軟性をもちかせているのではないかと思います。世界のロータリアンは、日本のようなステータスではなく、世界的な奉仕団体に加入している誇りをもって活動しているような気がします。本年度、2560地区では、田中政春ガバナーがRIの方針により、各クラブへ会員の3%増と40歳未満の会員獲得へ力を入れるように目標を設定しています。

そして新潟クラブでは、会員数100名と地元の若い職業人の入会促進を目標と致しました。とは言え、RIのように入会基準を緩和して誰でもいいから入会してもらおうという訳にはいかないように思います。

新潟クラブにふさわしい方入会を促進してまいりたいと思います。会員の皆様も、どなたか、すばらしい方がおられましたら勧誘をお願いしたいと思います。

以上、本日は会員増強・拡大のお話をさせていただきました。

(3) 新会員の紹介

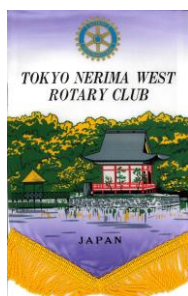


(株)ドコモCS 新潟支店支店長
竹内 一樹君
ご紹介 宇尾野 隆君
所属委員会 社会奉仕委員会

ドコモCS新潟支店の竹内一樹と申します。このたびは伝統ある新潟ロータリークラブへ入会させて頂くにあたり、(株)ウオシヨクの宇尾野代表取締役社長、(株)TOSYSの登坂取締役からご推薦を頂きました。出身は愛知県名古屋市でNTTへ技術系で入社、後にNTTドコモとなる移動体通信事業部へ配属され、開発業務や設備投資計画などの業務に携わって参りました。入社当時は自動車電話やポケットベルが主流の時代でしたが、携帯電話が出てからの移動通信技術の進化スピードは凄まじく、現在のようなスマートフォンが主流になるとは誰も想像できなかったと思います。支店では新潟エリアにおける販売(営業)が中心となりますが、新潟市は日本でも有数の農業地帯であり革新的農業実践特区ということで、地元の皆様と一緒に移動通信の技術を通じ、地域の発展に少しでも貢献できればと考えております。諸先輩方皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

(4) 竹石直前会長より東京練馬西クラブ卓話報告

8月22日、台風の中でしたが、東京練馬西クラブで「誇りたかき新潟の52人」について卓話をしてまいりました。兄が同クラブ会員です。バナーを交換致しましたのでご披露致します。



(5) ニコニコボックス紹介

- ・山本 正治君 今日のゲストスピーカーとして本学の五十嵐紀子先生をお迎えして。
- ・高橋 秀樹君 五十嵐紀子先生を歓迎してニコニコいたします。

(6) 幹事報告(内田 直紀幹事)

例会終了後、新会員オリエンテーションを4階「朱鷺の間」で開催致します。

(7) 卓話「がんのちはれ」

新潟医療福祉大学社会福祉学科准教授 五十嵐紀子氏



- (8) 8月23日例会の出席率 73.40 %
会員数97名(出席免除会員 8名)
出席者69名(出席免除会員5名を含む)
(2週間前メーク後 86.67 %)

9月6日の例会予定

卓話「緑の百年物語」推進運動について
公益社団法人にいがた緑の百年物語緑化推進委員会
常務理事 小林 猛 氏

新潟ロータリークラブホームページアドレス
<http://www.niigatarc.jp/>